

教育研究評議会議事録（第219回）

日 時：令和4年10月27日（木） 15時00分～15時38分

場 所：事務局第一会議室

出席者：小川、藤代、喜多、水野、佐々木、比屋根、藪、海妻、山本、横山、境野、八代、伊藤、木村、田代、村上、関野、松林、織田、宮本、清水、鎌田、小林、成田、萩原、澤井、木崎、小藤田

欠席者：天木

配付資料

- 議題1 岩手大学におけるリカレント教育の方向性と推進体制（案）について
- 報告1 三陸水産研究センター長の任命について
- 報告2 教育学部附属学校の改編に係る文部科学省事務相談の状況について
- 報告3 役員会報告（第548回～第549回）
- 報告4 経営協議会報告（第81回）
- 報告5 学長・副学長会議報告（第245回～第246回）
- 報告6 令和5年度入学試験実施状況【学部（編入学）】【大学院】

議事に先立ち、前回議事録について、原案のとおり議事録を確定することとした。

議 題

1. 岩手大学におけるリカレント教育の方向性と推進体制（案）について

学長から、岩手大学におけるリカレント教育の方向性と推進体制（案）について審議する旨が述べられ、藤代理事から、資料に基づき、本件の背景及び提案主旨、本学が実施している教育プログラムの状況、いわて高等教育地域連携プラットフォームにおける検討状況、本学以外での実施状況及び課題等、アンケート調査結果、県内の経営協議会委員を訪問した際の意見交換内容について説明があった。次いで、ビジョン検討会、4学部長との意見交換、10月6日開催の経営協議会での意見を踏まえて纏めた「岩手大学におけるリカレント教育の方向性（案）」及び「推進体制（案）」の提案があった。

審議において、担当教員の配置については、全学的なりカレント教育に取り組むためには地域社会教育推進室を担当する教員を配置するのが理想ではあるが、教育学部に社会教育分野の専門知識を有する教員を新たに配置し、兼務することとしたことを再度確認した。なお、学長から、「新たなプログラムの候補」としてあげているものは一例であり、新たに配置する教員を中心に、社会のニーズを把握したうえでプログラムを構築していくことになるとの付言があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

2. その他

なし

報 告

1. 三陸水産研究センター長の任命について

水野理事から、資料に基づき、三陸水産研究センターの次期センター長について、センターの設置目的や業務、水産システム学コースの専任教員の配置状況等を鑑みて、今回のみの特例措置として、現センター長の平井教授が引き続き任命される予定であると報告があった。

2. 教育学部附属学校の改編に係る文部科学省事務相談の状況について

境野教育学部長から、資料に基づき、教育学部附属学校の改編に係る文部科学省事務相談の状況について、全ての改編計画について文部科学省の了解を得たとの報告があった。

3. 役員会報告について

4. 経営協議会報告について

5. 学長・副学長会議報告について

6. 入試結果の報告について

資料のとおり。なお、学長から、第246回学長・副学長会議の議題1の審議内容について説明があり、近日中に学内外へ公表予定であるとの報告があった。

7. その他

なし

最後に、学長から、次回の教育研究評議会を、定例の11月24日(木)の15時から開催することが述べられた。